



平成19年3月15日

みなさまへ

会社名 株式会社ニチダイ
代表者名 代表取締役社長 古屋 元伸
(JASDAQ・コード 6467)
問合せ先 常務取締役 藤本 光洋
電話番号 0774-62-3481

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成19年3月期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)の業績予想について、平成18年10月27日付当社「平成19年3月期個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成19年3月期 個別業績予想の修正等

通期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	10,640	940	555
今回修正(B)	10,550	870	△315
増減額(B-A)	△90	△70	△870
増減率	△0.8%	△7.4%	—
前期(平成18年3月期)実績	9,758	803	417

【ご参考】 平成19年3月期 連結業績予想の修正等

通期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	12,000	1,050	610
今回修正(B)	12,010	970	540
増減額(B-A)	10	△80	△70
増減率	0.1%	△7.6%	△11.5%
前期(平成18年3月期)実績	10,795	802	369

※前回予想は、平成18年10月27日付当社「平成19年3月期中間決算短信(連結)」にて発表。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 修正理由

米国子会社 NICHIDAI AMERICA CORPORATION（以下、NAC という）は、工場建設以来欠損が続き、2005 年 12 月末時点での累損が 6,666 千ドル（762 百万円）となっておりましたが、2007 年度から受注が見込まれる日系自動車部品メーカー向けの量産に対応すべく、2006 年度上期からニチダイで受注したリピート品の生産を NAC で生産（以下、OEM という）を行うとともに、米国での受注増による社内生産高の増加により、2006 年度の単年度黒字と 2009 年 12 月までの累損一掃の計画を進めてまいりました。

この結果、NAC での量産対応は進んだものの、日本国内向けの OEM 生産品が 2006 年度第 3 四半期以降にユーザーの使用量が大幅に減少したことと、アジア向けの OEM 品が金型寿命対策により、設計変更等の諸事情が発生し、日本製による供給となったこと等から、米国子会社の 2006 年度の決算が 556 千ドル（64 百万円）の欠損となりました。

OEM 生産が当面見込まれない中、2007 年度の日系自動車部品メーカーの量産体制に対応した金型生産を確実なものとし、2008 年度以降の業績を黒字化させるために、リピート受注の強化、社内生産品の特定化による社内生産性の向上を重点項目として 2007 年度の計画を見直いたしました。

この結果、NAC において 2007 年度も欠損が発生する見込みとなったことと、2009 年 12 月までの累損の一掃が困難な状況となったことから、当期において子会社株式評価損 827 百万円を計上することといたしました。

以 上